



今年の夏は地元の新聞社主催による各種教室に弊社も参加しました。フォトブックづくりや製本教室など受講者は写真愛好家であり、自由研究にチャレンジする親子連れです。講師は弊社の企画や営業、制作、生産部の皆さんです。これは、弊社が掲げている共創を具体的に実現するものです。受講者の皆さんは初めて体験する本づくりに満足度も高かったようです。講師として参加した弊社の社員は製本がとにかく楽しいと言ってくれました。まさに共創の醍醐味ではないかと思います。

今回紹介する作品は弊社が一九八一年に制定したシンボルマークです。四代目社長清水義晴が、新たなロゴとマークをつくるのに希望したのは、それ自体が

シンボルマークは企業を最も象徴的に表す作品である。

「作品」であり、世界に通用すること。そしてそこには博進堂がつくり出す商品自体も「作品」であるように、との願いが込められています。当時はC I（コーポレート・アイデンティティ）がブームの時代でもありました。日本を代表する現代美術の作家たちに、企業のロゴやマークを依頼するということは類例のない革新的なことでありました。

新型コロナウイルスのワクチン接種が全国民に一日も早くいきわたることを心より祈念しております。



□本社・工場
〒950-0807
新潟市東区木工新町378-2
TEL.025-274-7755
FAX.025-274-7679

□本社営業
□東北支社
□札幌営業所
□C&A営業
□アートメール係



株式会社博進堂
<https://www.hakushindo.jp>

Art Factory & Printing Art.
School Album Produce,
Communication Design.

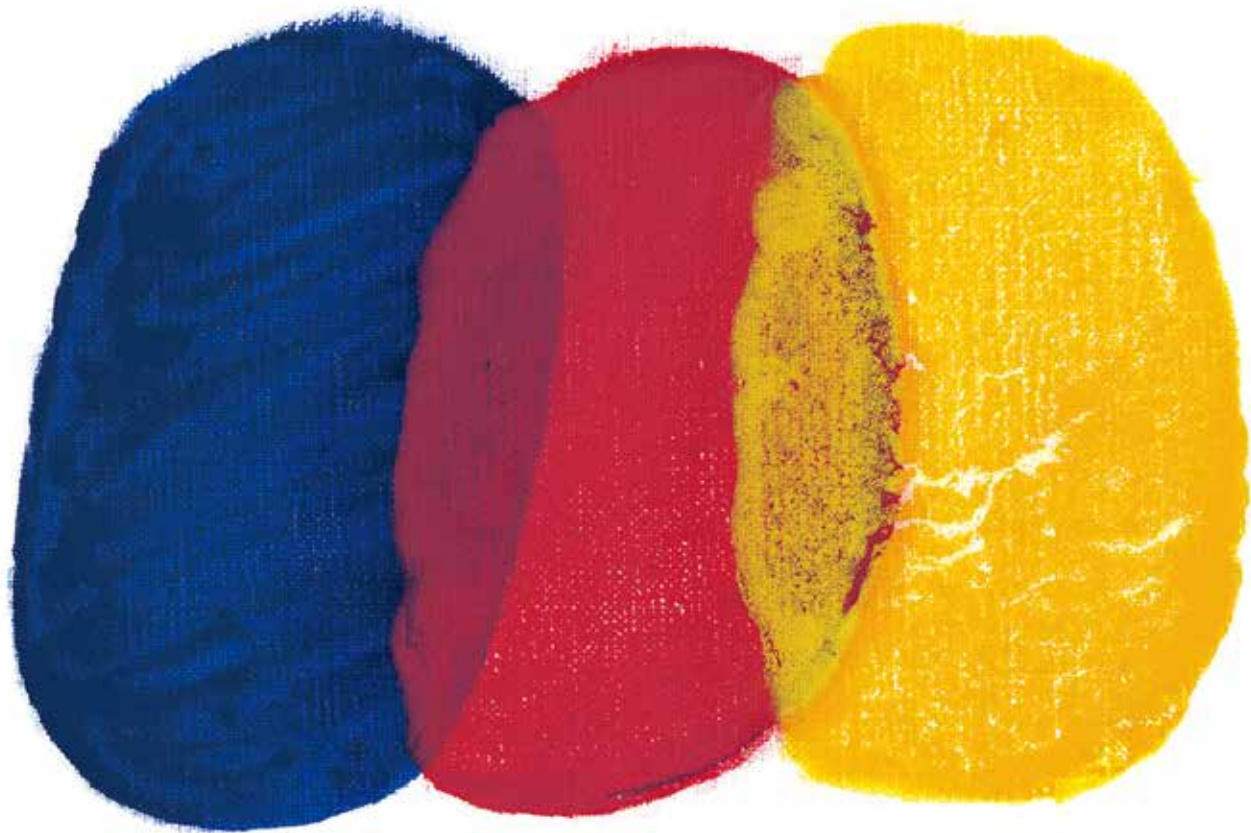
●事業内容
学校アルバム・記念誌・写真集・学校案内
自費出版・各種アルバム・PR誌・社内報
CI・会社案内・社史・カタログ・パンフレット・ポスター
まちづくり計画・事業概要・周年誌
ワークショップ・問題解決学・教育セミナー
ホームページ作成・デジタルサポート・システム開発
お気軽にご相談下さい。

一九八一年に制定された
博進堂のシンボルマーク

藤坂泰介著「戦略ノオト」より

抽象画家・津高和一先生に制作していただいた博進堂の新しいトレードマークである。印刷企業のイメージを、印刷インキの三原色（イエロー・シアン・マゼンタ）をモチーフとして、フリーハンドでフォルムを創っていただくことをお願いして、できあがったのがこのマークである。

いままでトレードマークのデザインは幾何学的なフォルムが定型化し、僕自身も情性的にその傾向に従ってきたが、最近、この機械的なフォルムに魅力を失い、フリーハンドによる表現にアプローチしていたのであるが、このたび、社名の書体を篠田桃紅先生に創っていただいたのを機会に、篠田先生の墨象に最も調和するシンボルを津高先生に制作していただいたのである。



津高 和一（つたか わいち）

戦前は詩人として活躍。二十五才の頃から絵を描き始める。
初期の具象画を経て、次第に簡潔なフォルムの作品を手掛けるようになる。
後期には抽象画の表現に到達した。国内外の美術展に出品し、
日本を代表する抽象画家として活躍。元大阪芸術大学名誉教授。
一九九五年一月十七日、阪神大震災にて逝去。